

観光交流ワークショップ（高山会場）
 ～自然、歴史、文化資源を活かした地域づくり～
 開催結果概要

日時	平成 18 年 10 月 19 日 14:00～16:00
会場	高山市民文化会館 4-4 会議室
ファシリテータ	加来 雄二(三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング(株)政策研究事業本部主任研究員)
発言者 (五十音順、敬称略)	上野 誠一(高山市商工観光部観光課 経済担当監) 熊崎 一比古(下呂温泉観光協会 会長) 田近 豊一(古川町観光協会 副会長) 津田 恵一(飛騨高山観光協会 常務理事事務局長) 松本 博(株)JTB岐阜支店長)
オブザーバー	石原 篤(国土交通省中部地方整備局 企画部事業調整官)



議論のポイント

現状・課題

- 観光客のニーズは体験・学習型など質や価値を求める本物志向へ・オーダーメイド型の旅行形態が浸透し、ニーズが多様化
- 外国人観光客は、異文化(日本固有の文化・風情等)を求めている
- ・非日常を求める国内観光客と志向は類似
- 交通基盤の整備により関東、関西からの観光客が増加
- ・東海北陸自動車道の整備、東海環状自動車道の開通、安房トンネルの開通によって、関西地方や関東地方からの観光客が増加
- 歴史・文化・自然など質の高い観光資源に恵まれている
- ・高山を訪れる人の6割がリピーターとして来訪
- 観光地の広域的な連携が求められる
- ・高山市、木曽、馬籠など観光地が周囲に点在している特徴を活かし、観光地同士が連携した周遊ルートの構築を図りたい

どう改善すべきか？

- 多様化する観光客のニーズの把握
- 歴史・文化を学び、非日常を体感できる地域づくり
- 観光地としての質の向上においては、おもてなしの心の醸成が重要
- 観光地の広域的なネットワークの形成と一体的な情報発信

地域づくり・まちづくりに求められる視点

- 広域的な地域間連携による観光交流圏の形成
- <ネットワークの拡充>
- ・高山周辺の観光資源を結ぶネットワークの形成
- ・北陸地域等との連携強化
- ・災害時の代替ルートの確保
- <地域間連携の強化>
- ・地域間連携により多様なニーズに対応した観光交流圏の形成
- ・一体的なPRによる魅力の発信
- 観光地としての質的向上
- <地域資源の有効活用>
- ・地域の特色を活かした地域づくり
- ・遊休地を活用した農業体験、空き家を活用した宿泊体験等
- ・観光客をもてなす人材の育成、おもてなし意識の醸成
- <住みよいまちづくり>
- ・住み手にとっても来訪者にとっても快適な空間づくり
- 街並み等美しい景観の形成
- 歩行空間等のユニバーサルデザイン化
- 魅力的な親水空間の創出

第1部：観光交流への取り組みの現状と課題について

○観光客のニーズは体験・学習型など質や価値を求める本物志向へ

- ・ 近年では団体旅行客は減少傾向にあり、個人旅行が中心となっている。そのような中でも、体験型、学習型の旅行ニーズが高く、本物志向、独自性など質を重視する傾向にある。
- ・ 旅行者自らインターネットなど多様なメディアから情報収集し、訪問先、宿泊先を組み合わせるといったオーダーメイド型の旅行形態が浸透しつつあり、ニーズの多様化が進んでいる。
- ・ 外国人観光客は、異文化（日本固有の文化・風情等）を求めている。非日常を求める国内観光客と志向は似ている

○交通基盤の整備により関東、関西からの観光客が増加

- ・ 飛騨・高山地域への観光客の多くは中部地方からであるが、東海北陸自動車道の整備、東海環状自動車道の開通、安房トンネルの開通によって、関西地方や関東地方からの観光客も増加している。
- ・ 交通基盤の整備が進むことによって観光客は増加し、今後、東海北陸自動車道が全通すれば、関西地方、北陸地方からの観光客も増加するだろう。
- ・ 自動車を利用した旅行客が中心であったが、近年ではバスや鉄道など公共交通機関を利用した観光客も増加している。特にバスツアーなどは根強い人気がある。

○歴史・文化・自然など質の高い観光資源に恵まれている

- ・ 歴史・文化を体感できる観光地として高山市のネームバリューは大きく、下呂温泉や奥飛騨温泉郷など周辺の観光地も活性化している。
- ・ 飛騨高山を訪れる旅行者の約6割がリピーターとして来訪し、一緒に旅行に連れ立つ相手や目的に応じて、多様な観光資源の中からメニューを選択している。

○観光地の広域的な連携が求められる

- ・ 小さい町単独では1時間程度の観光周遊となってしまう。高山市、木曽、馬籠など観光地が周囲に点在している特徴を活かし、観光地同士が連携した周遊ルートの構築が求められる。
- ・ 県境を越えた連携として、飛越国際観光都市連合（飛騨市、富山市、南砺市）が設立され、韓国など外客誘致に向けたPR活動を行っている。

第2部：どうあるべきか・いかに改善すべきか？

○多様化する観光客のニーズの把握

- ・ 非日常的な空間や空気に触れるために訪れる観光客や他とは違ったところに行きたいという観光客もあり、ニーズは多様化しているが、観光ニーズの把握やデータが未整備で、誘客に活用できていない。
- ・ 年代別・季節別などクラスター毎に細分化したアンケート等を実施するなど、観光客の志向やニーズの実態を反映したデータを収集し、観光客獲得に活かしていくべき。

○歴史・文化を学び、非日常を体感できる地域づくり

- ・ 観光客が高山へ観光する目的は、地域住民の生活やまちなみから歴史・文化を学び、非日常を体感できることである。
- ・ 地域を散策するガイドツアーや農業体験など体験型の観光の需要は拡大しており、空き家や民宿を活用した長期滞在型のツアーも好評である。

○観光交流の促進により交流人口の拡大が必要

- ・ 少子高齢化、過疎化が進行している昨今においては、観光交流を促進させ、交流人口を拡大していく必要がある。交通基盤の発達により、高山で観光をして金沢で宿泊する観光客も増

加しており、今後は日本海側からの観光客の誘致にも力を入れていく必要がある。

- ・ また、外国人観光客の増加を図ることも必要である。台湾、韓国からの観光客が増加しており、今後は中国や東南アジアからの観光客も増加すると考えられるため、積極的な情報発信を行っていくべきである。

○観光地の広域的なネットワークを形成と一体的な情報発信

- ・ 国内旅行者にとっての「高山」というイメージは、下呂温泉、木曽等の周辺の観光地も全て含めた面的なイメージが強い。観光地同士の広域的なネットワークを形成し、一体となって積極的な情報発信をしていく必要がある。
- ・ 今後は、世界遺産に登録された白川郷も含めた周遊ルートを構築し、観光客が地域内で連泊して楽しめる周遊ルートを構築していく必要がある。

第3部：地域づくり・まちづくりに求められる視点

○広域的な地域間連携による観光交流圏の形成

<ネットワークの拡充>

- ・ この地域は、道路の発達によって発展した地域であるため、今後も道路整備は不可欠である。
- ・ 観光客は同じ道を通して往来したくないため、周遊性・回遊性の高い道路ネットワークが整備されるとよい。
- ・ 飛騨市宮川、河合を通る道路が整備されれば富山空港へのアクセスが向上し、北陸地域との連携も強化されていくだろう。
- ・ 観光ルートの安全性を考えるならば、災害時や降雪時の代替ルートの確保と来訪者への災害情報等の情報提供が不可欠。
- ・ 観光地間を結ぶ道路網の整備のみならず、地域内の道路における急峻・狭隘な箇所の整備を進めることも重要。

<地域間連携の強化>

- ・ 高山、下呂、白川など飛騨地域一体をつなぐ環状道路が整備されれば、広域的な観光交流の圏域を形成できるのではないかな。
- ・ 地域が個々に PR するよりも一体となって情報発信することでそれぞれの魅力が相乗効果を生み出すのではないかな。

○観光地としての質的向上

<地域資源の有効活用>

- ・ 道の駅などの地域資源を有効に活用し、地域の特色を活かした地域づくりを推進する中で地域間の連携を図り、ネットワーク化していく必要がある。
- ・ 今後は、「美容・健康」、「農業体験」、「グリーンツーリズム」といったものが新たな旅行のキーワードとなりえるため、それらをテーマにした観光地づくり、施設整備も考えていくべきではないかな。
- ・ 遊休農地を活用した農業体験、空き家を活用した農家宿泊体験などメニューの充実、受け入れ体制の整備を。
- ・ 各観光地の魅力を向上させるためには、地元の人々が心を一つにして観光客を迎え入れ、おもてなししようという意識を醸成していくことが大切だ。

<住みよいまちづくり>

- ・ 観光客が快適と感じる場所は、地域住民にとっても住みやすい場所であると思う。住民相互の努力を促し、観光客にも地域住民にとっても快適なまちにしていく必要がある。

- ・ 伝統的な家屋や街並みは、外国人にとっても現代の日本人にとっても非日常的で魅力的な観光要素。美しい景観づくりを面的に広げていく必要がある。
- ・ きれいな街並み、美しい景観があるというのもある種のおもてなしであり、地元の人が愛着を持って大切にしている姿勢が来訪者を魅了するのではないか。
- ・ 高齢者や障害のある方が安心して周遊できるよう、交通施設や歩道などのユニバーサルデザイン化が必要である。
- ・ 外国人観光客が安心して周遊できるよう多言語サインを整備していくことも必要である。
- ・ 自然に恵まれた地域を活かして、河川などの親水空間を整備し、観光客や地域住民もくつろげる空間づくりが必要である。